

社会とのかかわり



地域社会とともに

JR東日本では「ステーションルネッサンス」として、立川駅においてはバリアフリー設備の拡充などを行い、よりご利用いただきやすい駅に変わったとともに、新たな商業スペース「ecute立川」・「ホテルメッツ立川」を作ることにより、地域の顔である駅に賑わいを創出し、地元への集客効果を高めるなど、地域社会への貢献に取り組んでいます。

また、東京駅では、八重洲側において「グラントウキョウノースタワー/サウスタワー」・「グランルーフ」を展開しており（「グラントウキョウノースタワーⅡ期」は2012年、「グランルーフ」は2013年完成予定）、丸の内側において駅舎の保存・復原を進めています。駅構内には商業ゾーン「グランスタ」を展開しており、これらを合わせて「東京駅が、街になる」をコンセプトに「東京ステーションシティ」と名づけ、首都東京の玄関口にふさわしい、新しい文化の発信地としてのまちづくりを目指しています。

さらに、地方自治体などからの要請に基づき、まちづくりにあわせた新駅設置、自由通路設置に伴う駅舎整備を自治体と協力して進めています。2008年度には周辺の土地区画整理事業にあわせ、川越線西大宮駅と南武線西府駅が新たに開業し、1987年の会社発足より自治体からの要請に基づき設置した駅は39駅になりました。また、成田線木下駅、中央線酒折駅では自由通路設置に伴う駅舎整備を行いました。



西大宮駅



西府駅

-社会とのかかわり-

●子育て支援施設

女性の社会進出やライフスタイルの多様化を支援するため、駅周辺のスペースを利用した保育園や保育ステーションといった子育て支援施設を、行政や保育事業者の協力を得ながら展開しています(2009年6月現在27箇所)。

今後も子育てにまつわるさまざまなニーズに対応した保育サービスを展開し、地域社会への貢献・沿線価値の向上に積極的に取り組んでいきます。



Jキッズルミネ北千住



茶々いまい保育園

●地域と共生した「観光開発」

近年、自然や景観の保護、地域住民の社会生活基盤の維持・向上などを視野に入れた、バランスのよい観光開発が求められるようになってきました。

「観光開発は街おこし」の視点から、地域と協働したコンセプトづくりからはじめる観光地づくりを長期的に展開しています。「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」をはじめ、地元の方々とともに沿線の魅力向上を図っています。また、こうした情報をJR東日本エリア全体に向け発信していくのもJR東日本が担う役割のひとつです。

さらに、グループ会社による農業への参入や地域と連携した産直市の展開、伝統工芸品の発掘、農産加工商品の開発などを通し地域における新たな雇用創出や資源の活性化に努めます。またイベント・地域情報発信を地元と都心の双方向で行うことで人の移動も含めた交流の創出も目指していきます。今後もさまざまなニーズに合わせて地域活性化・社会貢献を果たしていきます。

●鉄道文化財団

JR東日本の経営資源を継続的に社会貢献活動に役立てるため、(財)東日本鉄道文化財団を1992年に設立し、鉄道を通じた地域文化の振興、鉄道に関する調査・研究の促進、鉄道にかかわる国際文化交流の推進などに取り組んでいます。主な活動内容は、鉄道博物館や旧新橋停車場の運営、地方文化事業支援(遠野市茅葺き屋根伝承事業など2008年度は16件、約6,000万円)、アジア各国の鉄道事業者の研修受入れ(2008年度は9ヵ国、46名)などであり、ホームページ(<http://www.ejrcf.or.jp/>)や英文評論誌「JRTR」などで情報発信を行っています。

- 社会とのかかわり -

●鉄道博物館

①鉄道に関わる遺産・資料の調査研究を体系的に行う「鉄道博物館」、②実物を中心とした展示により鉄道の歴史を語る「歴史博物館」、③鉄道の原理・仕組みや技術について体験的に学習できる「教育博物館」、の3点をコンセプトに2007年に埼玉県さいたま市にオープン。以来、多くのお客さま(2008年度は約141万人)にご来館いただいています。



●次代の担い手とともに

(財)交通道德協会が運営する「鉄道少年団」は、青少年へ向けた交通道德の高揚を目的に、管内12支部約500人の団員が多彩な活動を行っています。これをサポートするJR東日本では、各支社に事務局を設置し、駅の清掃活動や各種鉄道施設の見学といった活動の場を提供し、次世代の交通道德の向上に資するよう、積極的な支援を続けていきます。

国際社会とともに

●技術・ノウハウの国際協力

海外の鉄道関係者へ向け、JR東日本が培ってきた技術やノウハウを紹介しています。2008年度は575名の海外の視察・訪問を受け、国営鉄道の民営化手法と課題、新幹線やSuicaに代表される先端技術ノウハウ、さらには地球環境保護、生活サービス事業に関する多彩なセミナーや現場視察を実施、情報提供を行いました。さらに国土交通省などの要請に基づき、アジアなど近隣諸国への鉄道専門家の派遣を行い、現地での指導などを通じて、国際協力を進めています。



新幹線総合車両センターの視察

●国際機関を通じた世界への貢献

JR東日本は、UIC(国際鉄道連合)やUITP(国際公共交通連合)などの鉄道国際機関に加盟し、世界各国の鉄道事業者などと交流しています。近年は、これらの国際機関の会議を主催したり、日本の鉄道技術を紹介すべくスタディーツアーを催行するなど、鉄道事業のグローバルな振興・発展に寄与すべく努めています。



UIC本部(パリ)で開催された総会で会長就任演説をする石田副会長

2009年4月には石田副会長がUIC会長に就任しました。これにより、JR東日本が世界の鉄道発展に貢献する場がこれまで以上に広がるとともに、世界における日本の鉄道の存在感を高める機会を与えられたと言えます。